



2



3



- 1 ヘリコプターを使った救助訓練
- 2 物資を運ぶ輸送車
- 3 救助者の状態を聞き取る自衛官



一般公開で観光客と交流

海上自衛隊のあるまち

国道沿いに見える護衛艦。私たちには見慣れた風景ですが、舞鶴を訪れた人にとっては、とても感動する風景だということを知っています。海上自衛隊と舞鶴市の関係は、明治時代の鎮守府に遡り、以降、両者はさまざまなことで連携し支え合っています。

鎮守府と歩んだ歴史

明治政府は1889（明治22）年、日本海側の拠点として、舞鶴に鎮守府の設置を決定しました。舞鶴湾は湾口が狭く（最も狭いところで700m）、波が立ちにくい。水深が深く艦艇が停泊できる。かつ、港が山で囲まれていて、港内の様子が分かりにくいなど防御に適した恵まれた地形であるなど、軍港としての必要な条件を備えていたことや日本海側の国防上の地理的条件が決め手となり、日本海側にある多くの港の中から舞鶴が選ばれました。

鎮守府を支えるため、のどかな農漁村であった東地域に、新たに市街地の建設が進められました。道路や鉄道といったインフラを始め、与保呂川の付け替えなど大規模な工事によって、現在の舞鶴から東市街地までは大きく姿を変えたのです。そして1901（明治34）年10月に舞鶴鎮守府が開庁され、初代司令長官に東郷平八郎海軍中将が着任したことは広く知られています。

海上自衛隊舞鶴基地では、海の安全を守るという本来の海上自衛隊の役割のほかにも、地域貢献として、地域とのつながりを大切に、さまざまなイベントや関係機関と連携した防災訓練、大規模災害発生時への対応が行われています。

もしもに備える 総合防災訓練

今年の3月9日には、海上自衛隊北吸棧橋を中心に「京都舞鶴防災フェスタ2019」が開催されました。京都府北部を震源とする大規模地震が発生した想定で、海上自衛隊をはじめ、海上保安庁、国土交通省、京都府警察、京都市消防局、京都府DMAT、舞鶴市、京都府など約30機関、200人が参加した大掛かりなもので、災害時の各機関の役割と連携を確認しました。このように大規模な訓練は、舞鶴に海上自衛隊と海上保安庁があるからできることです。定期的に訓練を行い、被害を最小に抑えることができるようにしています。

特に舞鶴独自のものとして、大規模災害で病院が機能を果たせなくなった時には、護衛艦「ひゅうが」が臨時の医療施設と

られています。戦後1952（昭和27）年、海上自衛隊の前身である保安庁警備隊の発足と同時に、舞鶴地方隊が編成されました。

海の安全を守る海上自衛隊

日本は四方を海に囲まれた島国で、資源や食糧などは海外に依存し、その9割以上が海上輸送。海上の安全確保や国際秩序の安定が欠かせません。そのために常に警戒監視、情報収集、各種訓練、海外での海賊対処活動などを行います。その中で、舞鶴地方隊と在

籍部隊の役割は、日本海側一帯の警備です。地図を見ると、北は秋田県から西は島根県までという広域を担当していることが分かります（左図）。舞鶴には舞鶴地方隊とは別に護衛艦隊や航空隊が在籍しています。自衛官は北吸棧橋に停泊している護衛艦にだけいると思っていまいませんか？その他にも、教育隊や警備隊、補給所、音楽隊、第4術科学校など多くの陸上部隊にも自衛官がいて、それぞれの役割を果たしています。



しての役割も果たします。傷病者を艦内の多目的スペースに運び、診察室や手術室、集中治療室などの医療スペースで治療をすることが出来ます。舞鶴にこのような機能を持った護衛艦が配備されていることは、私たち市民にとっても心強いものです。

- ◆災害時における各種協定
- ◆災害等の非常時における輸送能力の確保に関する協定
- ◆災害時等の非常時における燃料等の確保に関する協定
- ◆舞鶴地方総監部と電力会社との連携に関する協定

災害派遣

自衛隊法に基づいて、自然災害をはじめとする各種災害の発生時には、関係機関と連携・協力し、被災した地域での捜索・救助、水防、医療、防疫、給水、人員の輸送といったさまざまな活動を行っています。

平成28年の熊本地震や平成30年の7月豪雨では、舞鶴地方隊からも護衛艦やヘリコプターなどが被災地に赴き、支援活動を行いました。

舞鶴市も甚大な被害を受けた7月豪雨では、京都府知事の要請で、城屋で起きた土砂崩れによる行方不明者の捜索・救助活動が行われました。



城屋で救助活動



高野川流域で行方不明者の捜索